

当事者の社会参加のための 「難聴者の自立生活モデル」

～日本でのモデル化の試みと
フィリピンにおける有効性～
－2014年度修士論文から－

日本福祉大学大学院国際社会開発研究科2014年度終了
福田 能文

自己紹介

- 1971年栃木県鹿沼市生まれ
- 10歳前後から少しずつ聴力が落ち始める
- 父も難聴で、中学生以後、あまり会話した記憶がない
(難聴者同士のコミュニケーションの困難さ)
- 1993年、大学2年次、とちぎYMCAのフィリピンワークキャンプに参加。現在までに10回以上フィリピン訪問 (居住歴はなし)
- 1995年 江戸川大学社会学部卒 卒業後はとちぎYMCA国際事業委員、東京都中途失聴・難聴者協会理事のほか、開発教育の普及に携わる
- 2013年 日本福祉大学大学院国際社会開発研究科 (通信制) に入学。2014年3月修了。
- 現在、コンビニ本部で予算管理の仕事に従事。転職は3回。企業文化、組織風土により障害 (Disability) の違いを痛感している。

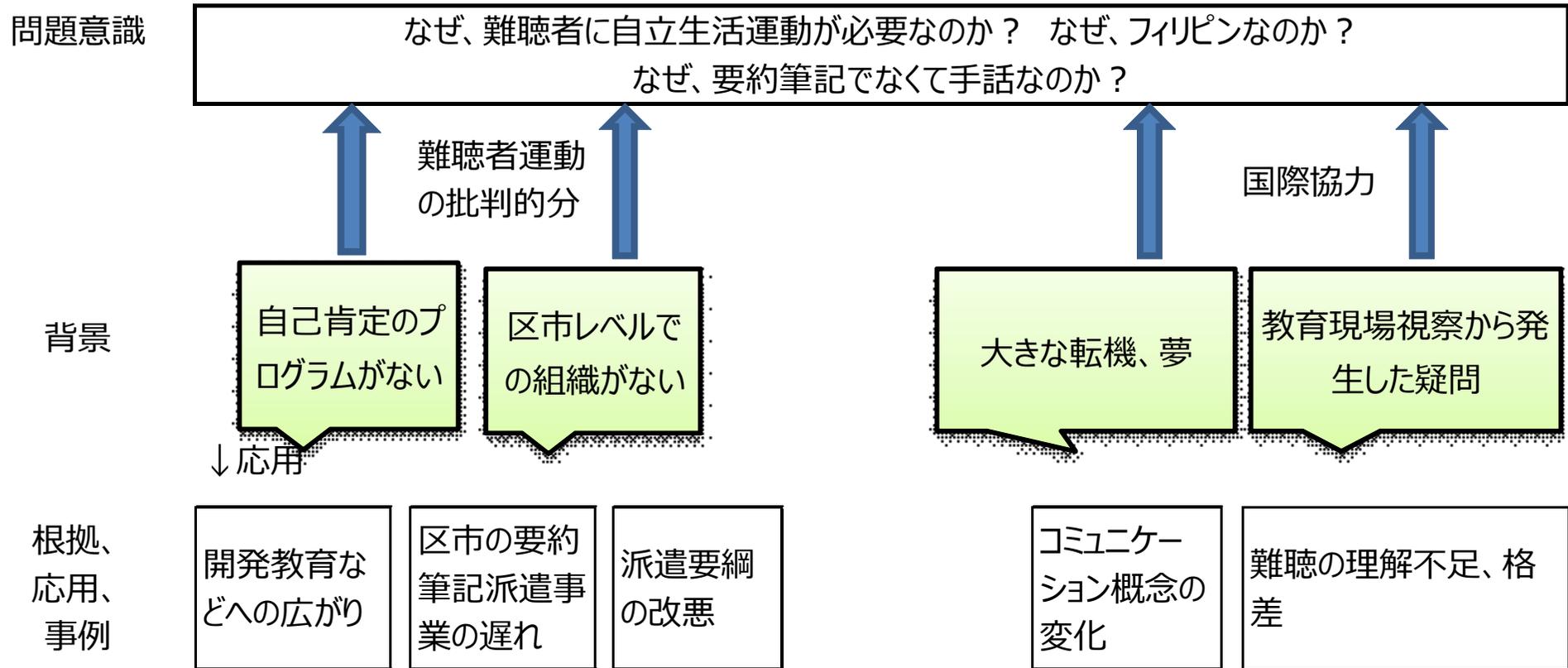
私の聞こえ方、難聴の説明

- 難聴は目に見えない障害、本人も認識しにくい
⇒世界一わかりやすい難聴の説明（実演）
【私の聞こえ方】
- 聞こえ方は一人ひとり違う。世間は「聞こえる」、
「聞こえない」の二項分類で判断されがち。聞こえ方にも多様性がある。

論文の目的

- ① 障害者の自立生活運動を日本の難聴者運動に適用する際の課題と可能性を明らかにして、「難聴者の自立生活運動」の骨格を「モデル」として築くこと、
- ② 日本の文脈から導いたこのモデルの分析の視点として、フィリピンの難聴者の状況を明らかにし、フィリピンにおける難聴者の自立生活運動の可能性を探ると同時にモデルの是非を検証していくことである。

問題意識、背景



なぜ、難聴者に自立生活運動？①

難聴者運動は、要約筆記の普及、字幕が中心で自己肯定を促す概念やプログラムがない。

自己肯定（自己信頼の回復）によってできたこと。開発教育協会では要約筆記を独自に整備し、障害者参加の必要性の認識（開発の問題として）が広まった。

■ 障害の問題は開発の問題（機関紙オピニオン）

http://www.dear.or.jp/book/bn60_opinion.pdf

■ DEAR版みんなの参加のための取り組み

<http://www.dear.or.jp/activity/diversity.html>

なぜ、難聴者に自立生活運動？②

難聴者運動は都道府県レベルでの運動を展開してきた。2006年に障害者自立支援法が施行され、区市町村レベルでの運動が必要になってきた。

(私が直面した課題)

三鷹市で：

江東区で：

フィリピンとの出会い、転機

- フィリピンワークキャンプ
- 開発教育、池住義憲さんとの出会い（開発教育、PRAワークショップ）

フィリピンの教育現場視察から

ラグロハイスクール(Lagro High School)

マニラ首都圏ケソン市北部にある生徒数約6000人。
聴覚障害者の特區別支援学級（SPED）が併設
されている。授業はアメリカ手話。

- 2004年：
- 2009年：
- 2012年：アンケート調査実施
- 2013年
- 2014年

フィリピンの教育現場視察から

公立と私立の格差

2013年と2014年には私立で裕福な家庭の子女が通う、ミアム大学付属ろう学校（Miriam College Southeast Asian Institute for the Deaf）を見学。1クラス3人から7人の少人数。

アメリカ手話やフィリピン手話ではなく、SEE（Signing Exact English：英語対応手話）で授業。

教師の手話、パワーポイント、教科書、字幕の入ったビデオなどあらゆる手段を利用して授業を進めていた。

難聴者当事者の数学教員も勤務している。

働く難聴者が直面した差別

- ケソン市にあるモールで働く女性が直面した差別

フィリピンの難聴者グループ

- ここ最近になってフィリピンでも難聴者のグループが組織されてきた
- 2015年11月の訪問時、彼らが訴えていたのは「私たちはろう者ではない、難聴者だ」と。難聴者としてのアイデンティティが顕在化してきた。現在、かれらはT Vに字幕を付与するよう政府に要求している。

今後の活動と参考文献

フィリピンの自立生活センターと組んで、障害種別を問わずに自立生活運動を広めていく。

コミュニティカフェを開催し、地域社会の中で共存方法を試行錯誤に日本の地域社会に還元していく。

立命館大学生存学研究センターのHPに修士論文（加筆訂正版）を掲載頂いています。詳細はそちらを参考にしてください。

当事者の社会参加のための「難聴者の自立生活モデル」～日本でのモデル化の試みとフィリピンにおける有効性/日本福祉大学

<http://www.arsvi.com/2010/160223fy.htm>